

「釧路湿原自然再生協議会」

## 第7回 旧川復元小委員会

資 料（案）

平成18年3月13日

釧路湿原自然再生協議会事務局

釧路湿原自然再生協議会  
第7回 旧川復元小委員会

日時：平成 18 年 3 月 13 日（月） 10:00～12:00

場所：釧路地方合同庁舎 5F 共用第 1 会議室

議 事 次 第

1. 開 会

2. 議 事

1) 事業実施の考え方について-----資料 1

2) 地域意見交換会（標茶町）の開催報告-----資料 2

3) その他

3. 閉 会

釧路湿原自然再生協議会  
旧川復元小委員会 委員名簿

計:29名

■個人(10名)

(敬称略、五十音順)

No	氏名	所属
1	内島 邦秀	北見工業大学 工学部 教授
2	大山 仁美	環境カウンセラー(事業者部門)
3	桂川 雅信	北海道教育大学札幌校 非常勤講師 環境カウンセラー(市民部門)
4	神田 房行	北海道教育大学 副学長(釧路校担当)
5	木村 勲	
6	清水 康行	北海道大学大学院 工学研究科 教授
7	中村 太士	北海道大学大学院 農学研究科 教授
8	針生 勤	釧路市博物館 館長補佐
※ 9	日野 貴	
10	松本 文雄	

■団体(10名)

(敬称略、五十音順)

No	団体/機関名	代表者名
1	釧路市漁業協同組合	代表理事組合長 濱 隆司
2	釧路自然保護協会	会長 高山末吉
3	釧路湿原国立公園 ボランティアレンジャーの会	代表幹事 山口 功
4	釧路シャケの会	会長 林田 恒夫
5	釧路水産用水汚濁防止対策協議会	顧問 濱 隆司
6	釧路生物談話会	代表 須摩 靖彦
7	さっぽろ自然調査館	代表 渡辺 修
8	下久著呂地区農業用排水維持管理組合	組合長 八木沢 栄蔵
9	タンチョウ保護調査連合	代表 正富 宏之
10	特定非営利活動法人 トラストサルン釧路	理事長 黒沢 信道

■オブザーバー(5団体)

(敬称略)

No	団体/機関名	代表者名
1	社団法人 十勝釧路管内 さけます増殖事業協会	会長 小嶋 孝
2	標茶町農業協同組合	代表理事組合長 門田 功一
3	鶴居村農業協同組合	代表理事組合長 瀧澤 義一
4	幌呂農業協同組合	代表理事組合長 植田 晃雄
5	標茶町商工会	会長 栗田 和行

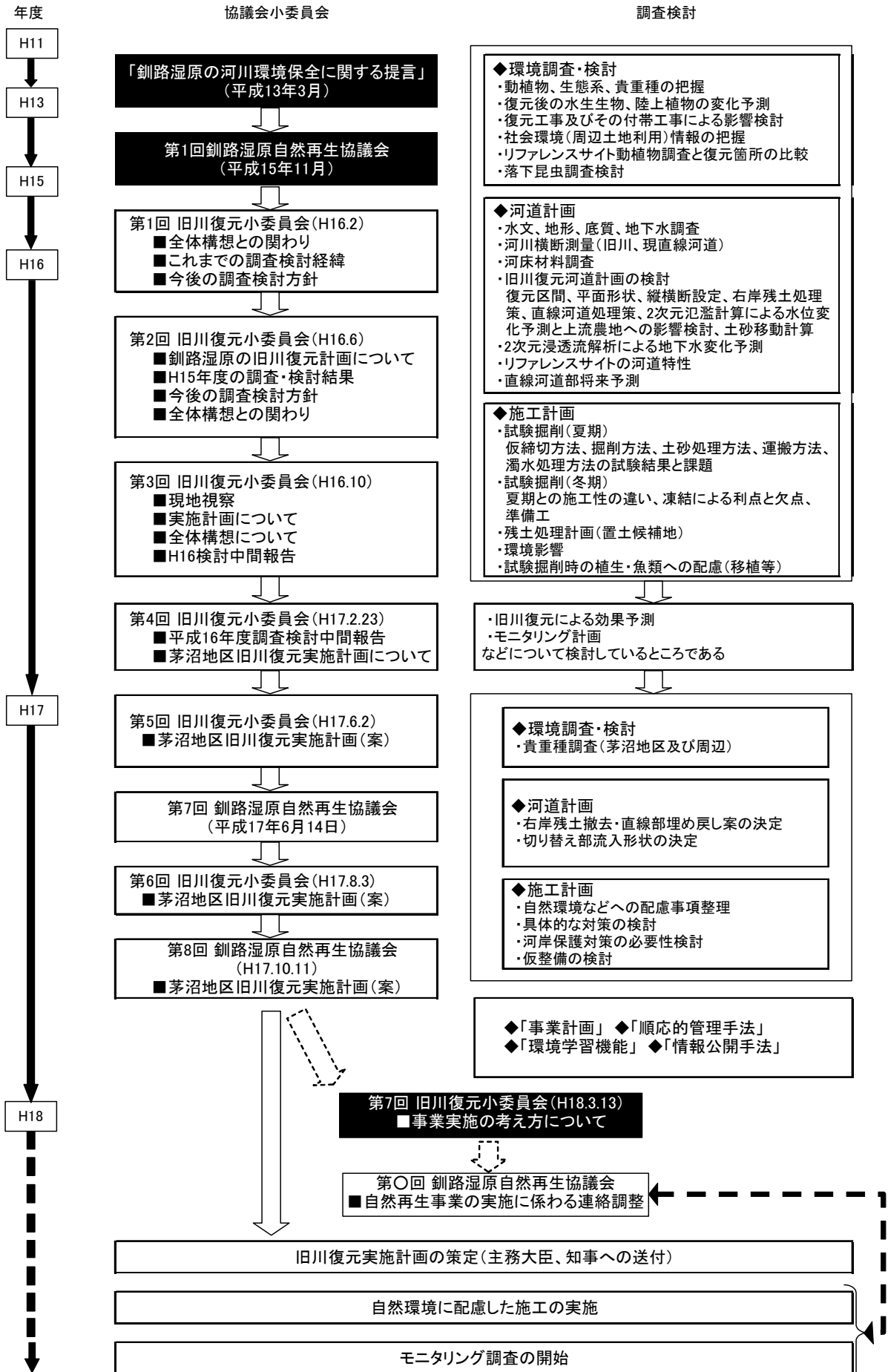
■関係行政機関(4機関)

(敬称略)

No	団体/機関名	代表者名
1	国土交通省 北海道開発局 釧路開発建設部	部長 松浦 壽彦
2	環境省 釧路自然環境事務所	所長 星野 一昭
3	標茶町	町長 今西 猛
4	鶴居村	村長 日野浦 正志

※:第2期後期応募募構成員

旧川復元計画に関するこれまでの経緯と今後の計画



## 議事概要と今後の対応状況～第6回旧川復元小委員会

議事概要	「回答」及び対応状況
<ul style="list-style-type: none"> <li>・旧川下流合流部の河道形状が間違いならば修正すべき。</li> <li>・仔魚は稚魚に修正すべき。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図および語句を修正する。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・特に直線河道の1/3を旧川復元の対象区間としたのは、上流の農地への配慮だと思うが、残りの区間の将来的な方向性や方針にも触れておいたほうが分かりやすい。</li> <li>・当初は直線河道全体の復元を計画していたが、水位上昇の影響などを検討しながら、最終的には貴重種であるイヌイトモの保全を目的に対象区間を決めた経緯がある。今後、上流区間の旧川復元は考えていないということなので、この実施計画では施工区間を明記しているという理解で良いのではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参考資料として整理していく。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的には実施計画を着実に進めていただきたい。</li> <li>・一部乾燥化に適した動植物については、今後かなり推移していくとを感じるが、割り切っていかなければ、なかなか事は進まないと思う。</li> <li>・イヌイトモやイトウなど、貴重種は人工的に移動させることは必要だと思うが、工事により手が加えられた残された旧川に何かを持って来るより、自然に任せておいた方が良いと感じる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実施にあたり詳細に検討していく。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・工事による一時的な影響に対する配慮と、復元そのものによる環境変化に関する配慮があると思われるので、分けて表記したほうが良いと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工事に対する配慮と復元による配慮の両方に係わるものもあり、文章はそのままとする。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・植生に関しても、ヨシ群落の現況及び過去の面積、予測数値などが入っていた方が、モニタリングの評価と対応しやすいと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予測時の地下水水位計算は、今後、水循環小委員会で精度を上げることになり、予測図は復元後のイメージ的な扱いとしていく。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前の状態を充分把握しておかないと、モニタリングの結果と比較できないことになる。データが不足しているのであれば、施工前に十分な調査が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不足しているものを精査して、事業実施前に調査を実施する。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境教育の資料提供について、この事業は今後の環境教育に直結する大事な事業であるので、協力していただきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・検討した膨大な資料を基に、環境教育に使えるような資料を整理していく。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・修正した結果は委員長に一任していただいたので、この実施計画は修正も含めて承認されたと考える。</li> </ul>	

## 議事概要と今後の対応状況～第8回協議会

議事概要	「回答」及び対応状況
<ul style="list-style-type: none"> <li>・計算結果は、現地での流量観測の精度に左右される。計算結果が細かくても、信頼性としては測定流量の信頼性しかない。記載の精度は現場の測定範囲に止めた方がよい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・記載方法はモニタリング可能な範囲で再考する。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・旧川復元により3割減の結果となっており、その土砂は旧川復元した1.6キロ区間に堆積することになる。相当量の土砂が堆積し、乾燥化することになるのでは。</li> <li>・自然の状態でも濁りが発生するのは普通のことである。土砂がないと氾濫源も形成されない。ある程度の栄養塩はそこに供給されるべきである。</li> <li>・生物に対する影響という点では、直線化により水位が低下し、乾燥した立地になったので、直線化が生物にとって良かったとは思えない。</li> <li>・この泥炭地が形成される前から土砂が入ってきており、その土砂があるから泥炭地が形成されている。その土砂をどこで受け止めるかという議論だと思う。水だけでは湿原は成立しないということ踏まえておく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後モニタリングにより効果を検証していく。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・直線河道の埋め戻し区間上流端に強固な堰などを設けないと、洪水時に突破される可能性があるのではないか。</li> <li>・なにか問題が出てくることを覚悟して、修正することも含めて柔軟的に対応していくということだと思う。</li> <li>・直線河道右岸の残土を撤去するので、埋め戻す区間の上流側から氾濫は始まり、水位も流速も下がることになる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・洪水が埋め戻した直線河道部に流れ込むことがないように、工法は今後検討していく。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・JR線路と近接するヘアピンカーブがある。旧川を復元することにより、ここが浸食されると思う。こういった箇所については、自然に任せるばかりでなく、人間による管理も必要になる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実施にあたり詳細に検討していく。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・過去、現況、復元後の植生図が示されているが、過去をどのように認識しているのかがよく分からない。</li> <li>・冠水頻度の変化などにより植物群落が変化するという、予測の根拠になるデータがあるはずなので、それらを整理して示した方がよい。物理環境を変えることで生物がよみがえるということの方が重要なので、そういった説明が必要である。</li> <li>・過去の姿に近づけようとする、植林をするなど、色々なことが考えられるが、そういったことは安易に行うべきではないと言いつけている。</li> <li>・旧川復元を行った後は自然の復元に委ねるべきで、我々は湿原に戻るのを50年、100年我慢する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・案を分かり易く修正する。</li> <li>・参考資料として整理していく。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・旧川復元後の地下水位が細かい数値で示されている。ここまで示さず、旧川復元により地下水位が上昇するということだけを示してはどうか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・記載方法を再考する。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・幾つかの重要な指摘や提案があった。それらを踏まえ修正することとして、この実施計画案を承認していただき、次の段階に進めたいと思う。</li> </ul>	